

2021年度 日本工学院専門学校											
ミュージックアーティスト科/プレイヤーコース											
アドバンスレッスン1_a_Ba											
対象	2年次	開講期	前期	区分	必修	種別	実習	時間数	120	単位	4
担当教員	篠崎保/栗山宣幸 平下政志/堀越彰/内田充			実務 経験	有	職種	音楽家				
授業概要											
<p>この科目を受講する学生は、ベースという楽器の特性や演奏の仕方を理解し、音楽の中でベースラインを自由に作れるようになることを目指す。同時にコード理論・構成音を把握した上で対応できるスケールを使用しラインを構築できるようになることを目的とする。基礎的な理論・技術を再確認し、フィジカルなトレーニングで身に付けたテクニックを最大限に引き出せるように蓄積したものを反映できるようにしていく。卒業ライブでの成果を上げることも目的の1つである。</p>											
到達目標											
<p>基礎的な演奏能力をしっかりと身に付けること。また各種イベント、Real Dreams、卒業ライブ、外部オーディション等に対応できるように知識と技術を向上させることを目標とする。</p> <p>また様々なジャンルに対応できるテクニックを習得し卒業後も幅広く活動できる能力を身に付けることも目標である。</p> <p>技術と知識は表裏一体であることを重んじていく事が技術向上の最大のポイントである。</p>											
授業方法											
<p>この授業では、基本的なリズムやビートなどベースリストにとって重要な概念の理解、音楽理論の理解、演奏能力の向上を目指し、譜面によるエクササイズとそのエクササイズによる練習曲を交互に行っていく。</p> <p>また楽曲分析を行い、適切な音選びが行えるように指導していく。</p>											
成績評価方法											
<p>試験・課題 70% 課題毎に提出。検定試験の受験・点数により評価</p> <p>成果発表 20% 授業内に行われるロールプレイング・グループワークにより評価</p> <p>平常点 10% 積極的な姿勢</p>											
履修上の注意											
<p>この授業では、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。配布資料は毎回持参、毎回のレッスンにて習得したテクニックは反復練習を欠かさず行う事。フィジカルなトレーニングがメインになるので体調管理も必要である。出席率、提出率が4分の3を満たしていない者、4分の3以上出席しない者は、定期試験受験不可、進級できない。</p>											
教科書教材											
<p>毎回授業にて資料配布を行う</p> <p>参考書・参考資料等は授業中に指示をする</p>											
回数	授業計画										
第1回	マイナーペンタトニック、ブルーススケール、ミクソリディアンスケールの理解										
第2回	マイナーペンタトニック、ブルーススケール、ミクソリディアンスケールと調性についての理解										
第3回	ひとつひとつの音を大事に理解しながら引くこと										
第4回	早いパッセージを正確に弾くこと										
第5回	アルペジオを正確に弾くこと										
第6回	全体のベースライン構成を把握しながら演奏する										

2021年度 日本工学院専門学校	
ミュージックアーティスト科/プレイヤーコース	
アドバンスレッスン1_a_Ba	
第7回	マイナーペンタトニックスケールについて理解を深める
第8回	早いパッセージをひとつひとつ正確に弾いていく
第9回	早いパッセージをひとつひとつ正確に弾いていく 転調への対応
第10回	テンポをできる限り上げて弾いてみる
第11回	全体を正確に弾いてみる
第12回	アルペジオをバランス良く正確に弾く
第13回	コード進行を正確に認識して演奏する
第14回	テンポをできる限り上げて弾いてみる
第15回	全体を正確に弾いてみる

2021年度 日本工学院専門学校											
ミュージックアーティスト科/プレイヤーコース											
アドバンスレッスン1_a_Dr											
対象	2年次	開講期	前期	区分	必修	種別	実習	時間数	120	単位	4
担当教員	篠崎保/栗山宣幸 平下政志/堀越彰/内田充			実務 経験	有	職種	音楽家				
授業概要											
<p>一年次に習得した知識・実力をベースにしつつ、改めてドラムを演奏する上での基本的なグリップとフォーム、フットペダルの踏み方と足の使い方の再考・見直しからスタートし、基礎ルーディメンツの応用と実践、基本的なリズムワークをレクチャーして行くことで、ドラマーとしての総合的なテクニック（スティック&amp;ペダルワーク）の向上を計ります。</p>											
到達目標											
<p>多種多様あらゆるジャンルの音楽スタイルを学び、楽しみながらドラムをプレイすることでの自己表現（タイム&amp;タッチ&amp;トーンを意識しつつ）が出来る様に学生を育成、指導して行きます。音楽は歌う人と音を奏でる人同志の合奏であるという意識を持ち、ただテクニックに頼るのではなく、ドラムを通して音楽の中でのコミュニケーション（会話）能力を高めていく授業を目指します。</p>											
授業方法											
<p>この授業は個人マンツーマンの形ではなくグルーブレッスンの形態で行います。学生同士お互いの得意;不得意、また各々のキャラクターと魅力的な部分をお互いにリスペクト・理解し合う事の大切さ、それをどのように学生に伝えていくかを意識しながら授業を進めます。授業を通して、単にテクニック面だけではなく、音楽に真摯に向き合い、音楽を生かすプレイ&amp;アプローチの出来るミュージシャンの育成を目指します。</p>											
成績評価方法											
<p>試験・課題 70% 課題毎に提出。検定試験の受験・点数により評価          成果発表 20% 授業内に行われるロールプレイング・グループワークにより評価          平常点 10% 積極的な姿勢</p>											
履修上の注意											
<p>この授業では学生間または講師と学生のコミュニケーションを重視します。リハーサル・本番など実際の現場の観点から、授業スタジオ内の私語などには丁寧に注意・説明し対応します。単に授業に出席するのではなく、実現場を前提としたマナー、ミュージシャンシップを意識する。各学生とも卒業後に実現場、実社会で起こり展開して行く様々な事々に、自分なりのヴィジョンを持ちながら対処し進めて行けるように指導・応援して行きます。出席率、提出率が4分の3を満たしていない者、4分の3以上出席しない者は、定期試験受験不可、進級できない。</p>											
教科書教材											
<p>毎回授業にて資料配布を行う          参考書・参考資料等は授業中に指示をする</p>											
回数	授業計画										
第1回	各学生ごとに自分に適したグリップ、フォームのチェックを行う										
第2回	各学生ごとに自分に適したペダルの調整、踏み方のチェックを行う										
第3回	打面からのリバウンド、スティックに生ずる遠心力をを理解する										
第4回	リバウンド、遠心力とフォームのバランスについて理解する										
第5回	スプリング特性、ビーターの遠心力、足の動きの連合性について理解する										
第6回	スティック&ペダルワークの実践：8ビート系										

2021年度 日本工学院専門学校	
ミュージックアーティスト科/プレイヤーコース	
アドバンスレッスン1_a_Dr	
第7回	スティック&ペダルワークの実践：16ビート系
第8回	スティック&ペダルワークの実践：シャッフル、スイング系
第9回	8分、16分、3連符でのあらゆるアクセントの実践
第10回	アクセントと歌うドラミング：フレーズ編
第11回	アクセントと歌うドラミング：リズム編
第12回	ヴォリュームコントロールと音色の再考、実践（タッチ&トーン）
第13回	ダイナミクスによるリズムワーク、フレージングの表現力の幅を広げる
第14回	ダイナミクスによる1曲単位の中での表現力（ストーリー性）の幅を広げる
第15回	全体のまとめ

2021年度 日本工学院専門学校											
ミュージックアーティスト科/プレイヤーコース											
アドバンスレッスン1_a_Gt											
対象	2年次	開講期	前期	区分	必修	種別	実習	時間数	120	単位	4
担当教員	篠崎保/栗山宣幸 平下政志/堀越彰/内田充			実務 経験	有	職種	音楽家				
授業概要											
この科目を受講する学生は、企画・制作・販売等がボーダレスな今の音楽業界において、ギタリストとしての多角な視点での音楽力を養うことを目的とする。ギタリストとしてのテクニック、知識、スキルの習得を目的とするが、音楽以外の情報もレッスン内で情報提供を行う。ギタリストとしての仕事のみならず、自分の周りの音楽家の仕事についても理解を深める。											
到達目標											
プロギタリストとして必要な専門知識をトータルで学ぶと同時に、あらゆるジャンルの音楽を通して、より実践的な演奏スタイルを構築する。プロギタリストとして演奏力を高めるには、演奏練習だけでは到達できません。演奏に付随する理論、知識、経験など総合的に身につけることにより、自らのプレイが変化していきます。ギターを中心に、周辺の楽器、または、業界の情報にも興味を持つことを目標としている。											
授業方法											
この授業では、読譜、各スケールに準じたエチュード、コードヴォイシング、イヤートレーニング、リズムトレーニングなどを相対的に学ぶと共に、あらゆるジャンルの楽曲に触れ、その演奏スタイルや表現力を養う。メトロノームやバックトラック、予め用意した課題曲やマテリアル等を活用した実技レッスン。なお読譜、リズムトレーニングは随時授業内で行っていく。											
成績評価方法											
試験・課題	70%	課題毎に提出。検定試験の受験・点数により評価									
成果発表	20%	授業内に行われるロールプレイング・グループワークにより評価									
平常点	10%	積極的な姿勢									
履修上の注意											
この授業では、テクニックの向上を図ることだけを目的とせず、ギタリストとして何を求められているのか?を常に模索できるような音楽的視点に基づいた俯瞰力にも注目する。理由のない遅刻・欠席は認めない。また学生間、講師と学生とのコミュニケーション力向上のために、なるべく自己から発言する機会を増やして行く。出席率、提出率が4分の3を満たしていない者、4分の3以上出席しない者は、定期試験受験不可、進級できない。											
教科書教材											
毎回授業にて資料配布を行う 参考書・参考資料等は授業中に指示をする											
回数	授業計画										
第1回	授業の説明、課題について、各自の目標設定。また聴く力、読み取る力、咀嚼について理解する										
第2回	各スケールの確認、デイリートレーニングの紹介など										
第3回	エチュード練習 その1										
第4回	エチュード練習 その2										
第5回	コードアルペジオ～ダイアトニックコード その1										
第6回	コードアルペジオ～ダイアトニックコード その2										

2021年度 日本工学院専門学校	
ミュージックアーティスト科/プレイヤーコース	
アドバンスレッスン1_a_Gt	
第7回	コードアルペジオ～サイクルシーケンス その1
第8回	コードアルペジオ～サイクルシーケンス その2
第9回	II-V、ドミナントモーション その1
第10回	II-V、ドミナントモーション その2
第11回	ペントトニックスケールの応用 その1
第12回	ペントトニックスケールの応用 その2
第13回	課題曲 その1
第14回	課題曲 その2
第15回	全体のまとめ

2021年度 日本工学院専門学校											
ミュージックアーティスト科/プレイヤーコース											
アドバンスレッスン1_a_key											
対象	2年次	開講期	前期	区分	必修	種別	実習	時間数	120	単位	4
担当教員	篠崎保/栗山宣幸 平下政志/堀越彰/内田充			実務 経験	有	職種	音楽家				
授業概要											
<p>この科目を受講する学生は、ピアノを中心としたキーボード全般をプレイする上での様々なテクニックを、バランス良く身につけていくことにより、学内、学外での音楽活動、ライブ、レコーディングになどの現場に於いて、存分に能力を発揮できるよう、しっかりと実力を身につけていくことを目標としている。</p>											
到達目標											
<p>この科目では、自分の得意なジャンル、スタイルだけでなく、現場での様々なリクエストに対応できるように、柔軟な姿勢とオープンマインドで音楽に取り組むことができるように日頃から練習に取り組むことを習慣づけたい。苦手なことでも、あきらめずになんとか工夫して乗り切れるだけのタフな精神力で、卒業後現場で活躍できるようにしっかりと準備していくことを目標とする。</p>											
授業方法											
<p>この授業では、一つ一つの課題に丁寧に向き合い、しっかりと復習することが大切です。個人のスキルを上げていく授業なので、授業以外の時間でしっかりと練習をすることが、授業の効果をより高めることとなります。</p>											
成績評価方法											
試験・課題	70%	課題毎に提出。検定試験の受験・点数により評価									
成果発表	20%	授業内に行われるロールプレイング・グループワークにより評価									
平常点	10%	積極的な姿勢									
履修上の注意											
<p>毎日の練習を欠かさず取り組むよう、課題を丁寧に理解し、一つ一つを丁寧に練習する。授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。出席率、提出率が4分の3を満たしていない者、4分の3以上出席しない者は、定期試験受験不可、進級できない。</p>											
教科書教材											
<p>毎回授業にて資料配布を行う 参考書・参考資料等は授業中に指示をする</p>											
回数	授業計画										
第1回	ブルースフォームの理解と基本的な知識										
第2回	基本的なコード伴奏										
第3回	ブルースハノン1										
第4回	ブルースハノン2										
第5回	右手のフレーズ1										
第6回	右手のフレーズ2										

2021年度 日本工学院専門学校	
ミュージックアーティスト科/プレイヤーコース	
アドバンスレッスン1_a_key	
第7回	ブルースのまとめ
第8回	右手パート とテーマの確認
第9回	左手パートと終止形、構成のアナリゼ
第10回	両手
第11回	右手パート とテーマの確認
第12回	左手パートと終止形、構成のアナリゼ
第13回	両手
第14回	2曲を仕上げる
第15回	ブルグミュラーの課題曲を演奏し、内容の理解を評価

2021年度 日本工学院専門学校											
ミュージックアーティスト科/プレイヤーコース											
アドバンスレッスン1_b_Ba											
対象	2年次	開講期	前期	区分	必修	種別	実習	時間数	120	単位	4
担当教員	篠崎保/栗山宣幸 平下政志/堀越彰/内田充			実務 経験	有	職種	音楽家				
授業概要											
<p>臨時記号や調合などの基礎知識はもちろん、自身の楽器の表現可能音域などをしっかりと把握していく。また楽曲の構成など全体が見渡せるようにしていくと同時にアンサンブルにおいて自分がどのような演奏をするのが良いかを感じ取ってもらう。</p> <p>リードシート、実音記譜譜面、マスターリズム譜等、プロフェッショナルが現場で使用使用する譜面を用いて現場対応がすぐにできることを最大限の目的とする。ポピュラー音楽に特化したものだけではなく、幅広いジャンルに対応できるようになることが重要である。</p>											
到達目標											
<p>譜面をしっかりと読むと同時に様々なジャンルの音楽と接し、譜面にある必要最低限の情報からの表現力の幅を広げていく。</p> <p>特にコードネームとハーモニックリズムのみのリードシートからの楽曲の理解度を深められるようになることを目標とする。</p> <p>現場対応の譜面を使用することにより、卒業後もセッションサンサンブルで対応できる読譜力を身に付けることが重要である。</p>											
授業方法											
<p>課題とする音源・譜面から構成などを説明。また、ジャンルの違いによる演奏のアプローチについても解説。</p> <p>フレーズの音楽的分析、先人たちの有名フレーズを習得し、さらに発展させる作業も行う。</p> <p>読譜と累積した（聞いて習得したフレーズ）をオリジナル楽曲に反映させていくことも行う。</p>											
成績評価方法											
<p>試験・課題 70% 課題毎に提出。検定試験の受験・点数により評価</p> <p>成果発表 20% 授業内に行われるロールプレイング・グループワークにより評価</p> <p>平常点 10% 積極的な姿勢</p>											
履修上の注意											
<p>五線紙は必ず用意し、常にメモは取る。第三者が見てすぐに理解できるような明確な表記を心がける。日々の反復練習を欠かさず行う事。配布資料・譜面は毎回必ず持参すること。興味のあるフレーズは記録すること。出席率、提出率が4分の3を満たしていない者、4分の3以上出席しない者は、定期試験受験不可、進級できない。</p>											
教科書教材											
<p>毎回授業にて資料配布を行う</p> <p>参考書・参考資料等は授業中に指示をする</p>											
回数	授業計画										
第1回	楽器上で表現可能な音域の把握										
第2回	楽器上での同音異フレットの把握										
第3回	音価、読み・書き方を知る										
第4回	実際に演奏し感覚を養う										
第5回	既存曲を参考に実際に演奏し感覚を養う										
第6回	音価、読み・書き方を把握する										

2021年度 日本工学院専門学校	
ミュージックアーティスト科/プレイヤーコース	
アドバンスレッスン1_b_Ba	
第7回	既存曲を参考に実際に演奏し感覚を養う
第8回	音価、読み・書き方を知る
第9回	実際に演奏し感覚を養う
第10回	既存曲を参考に実際に演奏し感覚を養う
第11回	音とポジションの把握
第12回	各種キーにおける音とポジションの把握
第13回	調による臨時記号表記の違い
第14回	既存曲を用い、転調による雰囲気の変化を感じ取る
第15回	既存曲を用い、転調による音やポジションの違いを把握する

2021年度 日本工学院専門学校											
ミュージックアーティスト科/プレイヤーコース											
アドバンスレッスン1_b_Dr											
対象	2年次	開講期	前期	区分	必修	種別	実習	時間数	120	単位	4
担当教員	篠崎保/栗山宣幸 平下政志/堀越彰/内田充			実務 経験	有	職種	音楽家				
授業概要											
配布されたリードシートや楽譜を読みながら演奏する。 またそれらが音楽的な表現で演奏出来る事を目的とします。											
到達目標											
Voアンサンブルやインストアンサンブル等の楽譜やリードシートを音楽的解釈を持って演奏する事。 また、それらを暗譜すること。 1年次よりも高度な表現で演奏。											
授業方法											
次の時限に行われるVoアンサンブルの授業の楽曲を確認しつつ、 その曲で使われるであろうリズムパターンやフレーズを演奏する。 メトロノームや音源を使い、音符休符、テンポ、ダイナミクス等、音楽的表現の練習。											
成績評価方法											
試験・課題 70% 課題毎に提出。検定試験の受験・点数により評価 成果発表 20% 授業内に行われるロールプレイング・グループワークにより評価 平常点 10% 積極的な姿勢											
履修上の注意											
遅刻はしない。迅速なドラムセッティングが出来るよう心掛ける。会話しているとき等に無駄な楽器の音を出さない。 理解出来なかった事は質問する。出席率、提出率が4分の3を満たしていない者、4分の3以上出席しない者は、定期試験受験不可、進級できない。											
教科書教材											
毎回授業にて資料配布を行う 参考書・参考資料等は授業中に指示をする											
回数	授業計画										
第1回	4分8分16分										
第2回	4分8分16分バリエーション										
第3回	ニュアンス、ダイナミクス、各コントロール										
第4回	様々なテンポで叩き分ける										
第5回	各音符の理解、音楽的演奏										
第6回	使い方の理解、初見演奏										

2021年度 日本工学院専門学校	
ミュージックアーティスト科/プレイヤーコース	
アドバンスレッスン1_b_Dr	
第7回	使い方の理解、初見演奏
第8回	各ジャンルのニュアンス等、音楽的演奏
第9回	読み方使い方の理解
第10回	音符休符の初見演奏
第11回	ドラムパターン、フィル等の初見演奏
第12回	各バラディドル
第13回	フラム、ドラッグ
第14回	ロール
第15回	前期まとめ

2021年度 日本工学院専門学校											
ミュージックアーティスト科/プレイヤーコース											
アドバンスレッスン1_b_Gt											
対象	2年次	開講期	前期	区分	必修	種別	実習	時間数	120	単位	4
担当教員	篠崎保/栗山宣幸 平下政志/堀越彰/内田充			実務 経験	有	職種	音楽家				
授業概要											
<p>スコアリーディング向上、アンサンブル向上、各パート楽曲に合わせてアンサンブルを実践しながらスキルを向上する授業。奏でているフレーズのリズム、音符の長さ、表現方法など意識できるようにする。他の楽器と合わせる時には、全員がリードスコアを読み、小節の進行、リピートマークなどの臨時記号に対応できる現場能力を育成する。各パートと合わせることで、自分以外の楽器への理解も深まることを目的としている。</p>											
到達目標											
<p>3週間に1回、全コースとアンサンブルの授業を行う。同じ楽曲であるが、さまざまなプレイヤーと合わせる事で、現場への対応力を養う。同一譜面を読んでいても、プレイヤーによって奏でるフレーズは十人十色であることを知る。その中で自分の個性を発揮できる経験と知識、スキルを得ることを目標とする。この授業はプレイヤーコース内のコミュニケーションを図る上でも重要な授業であり、コミュニケーションがスムーズなセッションほどクオリティーがあがることも経験として知る授業となっている。</p>											
授業方法											
<p>この授業では、3週分使い2曲を仕込む。各パート1週目男子曲、2週目女子曲（入れ替わり可能性有り）3週目全体合わせとする。3週目にはライブ形式で演奏を行い。演奏者ではないプレイヤーは客席で演奏を視聴し、演奏者たちにコメントをする。即時にフィードバックが帰ってくる授業。</p>											
成績評価方法											
<p>試験・課題 70% 課題毎に提出。検定試験の受験・点数により評価          成果発表 20% 授業内に行われるロールプレイング・グループワークにより評価          平常点 10% 積極的な姿勢</p>											
履修上の注意											
<p>この授業では、全ての授業を出席しなければ、仕込み等は自分で仕込んでくるものとする。全体合わせの加、自らの仕込みも開き、授業の欠席等で演奏ができない学生は全体あわせに参加させない可能性もある。出席率、提出率が4分の3を満たしていない者、4分の3以上出席しない者は、定期試験受験不可、進級できない。</p>											
教科書教材											
<p>毎回授業にて資料配布を行う          参考書・参考資料等は授業中に指示をする</p>											
回数	授業計画										
第1回	各パートごと課題曲のリーディング										
第2回	楽器陣のみで曲の全体合わせ										
第3回	Vo. と共に全体合わせ										
第4回	男子、女子各1曲ずつ合わせ										
第5回	楽譜通りに演奏、足らないスキルの向上										
第6回	楽譜でのリーディング能力の的認										

2021年度 日本工学院専門学校	
ミュージックアーティスト科/プレイヤーコース	
アドバンスレッスン1_b_Gt	
第7回	メトロノームを使ったり、よりプロの実践的アンサンブルを加える
第8回	エフェクター等により音作りの面でも楽曲に対する対応力の向上
第9回	アッパーストラクチャートライアドの理解
第10回	男子、女子各1曲ずつ合わせ
第11回	楽譜通りに演奏、足りないスキルの向上、楽器陣のみでのBANDサウンドの確認
第12回	楽器陣のみでのBANDサウンドの確認
第13回	Vo.と共に全体合わせ、バランス、アンサンブル・パフォーマンスを向上させる
第14回	前期試験発表会 リハーサル
第15回	前期試験発表会

2021年度 日本工学院専門学校											
ミュージックアーティスト科/プレイヤーコース											
アドバンスレッスン1_b_Key											
対象	2年次	開講期	前期	区分	必修	種別	実習	時間数	120	単位	4
担当教員	篠崎保/栗山宣幸 平下政志/堀越彰/内田充			実務 経験	有	職種	音楽家				
授業概要											
この科目を受講する学生は、鍵盤楽器におけるあらゆる基礎となる知識、奏法について学び、プロとして必要な演奏技術と、プロとして最低限の読譜力を養うのが目的です。実際には各楽器（ギター・ベース・キーボード・ドラム）、ヴォーカリストコースの学生と同じ課題曲を練習し、アンサンブルの力・ステージングを学んでいく。											
到達目標											
この科目では、学生が鍵盤楽器の様々なジャンル（ポップス・ロック・ソウル、R&B、ジャズなど）奏法を学ぶ事と、曲づくり、アレンジにおいて必要なことを鍵盤を使って学び実践して行く事を目標とします。											
授業方法											
この授業では、鍵盤楽器を使って様々な音楽的素養と、演奏技術、そして特に読譜力を養うのが主な目的であり、それに伴い、作曲、アレンジ技術も身につける。											
成績評価方法											
試験・課題 70% 課題毎に提出。検定試験の受験・点数により評価 成果発表 20% 授業内に行われるロールプレイング・グループワークにより評価 平常点 10% 積極的な姿勢											
履修上の注意											
この授業では、学生間・教員と学生のコミュニケーションを重視する。キャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める（詳しくは、最初の授業で説明）。出席率、提出率が4分の3を満たしていない者、4分の3以上出席しない者は、定期試験受験不可、進級できない。											
教科書教材											
毎回授業にて資料配布を行う 参考書・参考資料等は授業中に指示をする											
回数	授業計画										
第1回	1年時に培った技術のおさらい、7thコードの初見										
第2回	様々なジャンルの曲の読譜、ポップス、ロック中心										
第3回	様々なジャンルの曲の読譜、ソウル、R&B、ジャズ中心										
第4回	7thコードのテンションの基礎										
第5回	7thコードのテンションの実践、初見										
第6回	テンションコードの基礎										

2021年度 日本工学院専門学校	
ミュージックアーティスト科/プレイヤーコース	
アドバンスレッスン1_b_Key	
第7回	テンションコードの実践、初見
第8回	様々なジャンルごとでのテンションコードの使い分け、ポップス、ロック中心
第9回	様々なジャンルごとでのテンションコードの使い分け、ソウル、R&B、ジャズ中心
第10回	主に洋楽と邦楽のリーディング的思考の相違と、テンション感の使い分け
第11回	ジャジーなサウンドの楽曲のコード分析と初見の解説
第12回	ジャジーなサウンドの楽曲のコード分析と初見を課題曲を使用して実際に演奏
第13回	実際の現場に近い形での初見演奏
第14回	実演の総復習 リハーサル・ステージング
第15回	総復習 アンサンブル形式で他楽器・ヴォーカリストコースの学生と合わせる

2021年度 日本工学院専門学校											
ミュージックアーティスト科/プレイヤーコース											
アドバンスレッスン1_c_Ba											
対象	2年次	開講期	前期	区分	必修	種別	実習	時間数	120	単位	4
担当教員	鈴木一義/宍倉聖悟 上野一郎/二本柳/麻生祥一郎			実務 経験	有	職種	音楽家				
授業概要											
この科目を受講する学生は、音楽活動を通じて今後の社会人として求められるコミュニケーション能力と、音楽家としての自己表現力を高めることによって自己鍛錬の必要性と喜びを学び、また他者との価値観の相違の認識と受容を繰り返すことで、幅の広い人間性と社会性を持つことの重要性を理解することが目的である。											
到達目標											
この科目では、自身の楽器をより専門的に表現力や判断力を高めることで創造的に表現できる力を身に付け、自己表現の喜びと他者との共感力を養うことと、日々の自己鍛錬の計画と実行の積み重ねによって得られるものがいかに重要であるかを理解することを目標とする。											
授業方法											
この授業では、毎週学生の理解度をヒヤリング・チェックしながら進める。他者の問題点が自己の問題と共通あるいは類似のことも多く、問題解決しながら進めていく。授業中の積極的発言も自己表現の一つと考え、疑問点や問題点をできる限りその場で解決しながら行っていく。											
成績評価方法											
試験・課題 70% 課題毎に提出。検定試験の受験・点数により評価 成果発表 20% 授業内に行われるロールプレイング・グループワークにより評価 平常点 10% 積極的な姿勢											
履修上の注意											
この授業では、受講の態度や出席数はもちろん基本的なあいさつやマナーなど一人の社会人としてあるべき行動を求める。授業内の問題点は必ず質問またはメモに残して解消していくこと。授業内で配布されたプリント等は常時持ってくること。出席率、提出率が4分の3を満たしていない者、4分の3以上出席しない者は、定期試験受験不可、進級できない。											
教科書教材											
毎回授業にて資料配布を行う 参考書・参考資料等は授業中に指示をする											
回数	授業計画										
第1回	【Chameleon】ベーシックバックイング、テーマを弾く										
第2回	マイナーペンタトニックとドリアン・スケール										
第3回	BbmとEb7の共通音と特徴音										
第4回	【Freeway Jam】シャッフルグループのポイント										
第5回	ミクソリディアン・スケールとマイナーペンタトニック										
第6回	ソロの山の作り方(ストーリー展開)										

2021年度 日本工学院専門学校	
ミュージックアーティスト科/プレイヤーコース	
アドバンスレッスン1_c_Ba	
第7回	【Cantaloupe Island】マイナーペンタトニック ベーシックパターン
第8回	ミクソリディアン・スケールとドリアン・スケール
第9回	Fドリアン、A bドリアン、Dドリアン
第10回	【Sunny】マイナーペンタトニックとハーモニックマイナー・スケール
第11回	ディミニッシュとハーモニックマイナー・スケール(1)
第12回	ディミニッシュとハーモニックマイナー・スケール(2)
第13回	リズムの違いでフレーズに変化をつける
第14回	符割(大)から(細)へ盛り上がり展開
第15回	【Led Boots】テーマ中のリフをスムーズに切り変える

2021年度 日本工学院専門学校											
ミュージックアーティスト科/プレイヤーコース											
アドバンスレッスン1_c_Dr											
対象	2年次	開講期	前期	区分	必修	種別	実習	時間数	120	単位	4
担当教員	鈴木一義/宍倉聖悟 上野一郎/二本柳/麻生祥一郎			実務 経験	有	職種	音楽家				
授業概要											
<p>ドラマーがアンサンブル内でやるべきことは多岐に渡ります。アンサンブル上、最初に音を出す楽器であることが多い為、他の楽器をまとめる基礎知識、基礎力が重要となる。基本的な技術力と応用力を習得し、行き来きすることができる音楽家になることをめざす。アンサンブルの中でのリズムセクションの中心的役割を担い、即興的な対応力を身につけ、アンサンブルをよりよくするテクニックを身に着ける。</p>											
到達目標											
<p>スティックの握り方、ドラム椅子の座り方など基礎中の基礎をもう一度見直すところから始める。基本をしっかりと学ぶことにより、アンサンブル内でのドラマーとしての役割を十二分に発揮できるようになる。1年は8ビート、16ビート、三連符、シャッフルビートなど、現在の音楽業界でよく使われるビートへの理解を深めていく。すべてのフレーズを楽譜を見ながら叩けるようになり、楽譜から音を出せることを目標とする。</p>											
授業方法											
<p>練習台によるスティックコントロール、ドラムセットによるグルーブとフィールの習得、他の楽器とのアンサンブルによるリズムセクション形成方法と即興的アプローチのトライ。</p>											
成績評価方法											
試験・課題	70%	課題毎に提出。検定試験の受験・点数により評価									
成果発表	20%	授業内に行われるロールプレイング・グループワークにより評価									
平常点	10%	積極的な姿勢									
履修上の注意											
<p>出席率を重要視します。続いて個々の目標に積極的に向かい向上しているか、個人練習の時間をしっかり取れているか。ドラムの上達には日々の個人練習も重要である。出席率、提出率が4分の3を満たしていない者、4分の3以上出席しない者は、定期試験受験不可、進級できない。</p>											
教科書教材											
<p>毎回授業にて資料配布を行う 参考書・参考資料等は授業中に指示をする</p>											
回数	授業計画										
第1回	8分音符を基本にしたスティックコントロールと基本リズムアプローチ										
第2回	16分音符を基本にしたスティックコントロールと基本リズムアプローチ										
第3回	8分音符、16分音符のリズム上での基本パターンの習得										
第4回	8分音符、16分音符のリズム上での応用パターンの習得										
第5回	バラディドルの基本を学ぶ										
第6回	バラディドルのリズムへの取り入れ方										

2021年度 日本工学院専門学校	
ミュージックアーティスト科/プレイヤーコース	
アドバンスレッスン1_c_Dr	
第7回	バラディドルの応用フレーズの習得
第8回	3連符とシャッフルビートの基本パターンの習得
第9回	3連符とシャッフルビートの応用パターンの習得
第10回	教則本スティックコントロールを使った右足と左手のコンビネーションの基本
第11回	教則本スティックコントロールを使った右足と左手のコンビネーションの応用
第12回	教則本 スティックコントロールを使った右足と左手のコンビネーションとシンバルレガート
第13回	教則本 スティックコントロールを使った右足と左手のコンビネーションとシンバルレガート
第14回	8ビートの基本パターンの復習、8ビートのフィルインの習得
第15回	16ビートの基本パターンの復習、16ビートのフィルインの習得

2021年度 日本工学院専門学校											
ミュージックアーティスト科/プレイヤーコース											
アドバンスレッスン1_c_Gt											
対象	2年次	開講期	前期	区分	必修	種別	実習	時間数	120	単位	4
担当教員	鈴木一義/宍倉聖悟 上野一郎/二本柳/麻生祥一郎			実務 経験	有	職種	音楽家				
授業概要											
<p>さまざまなジャンルの課題曲に沿って、コード・アナライズ、スケール等を説明し、耳で聞いている音が、実際にどのような音階で構築されているのか、どのような和音構成で作られているのか、また、音色による感じ方の違いなど、常にリスナーを意識した音楽を届けるギタリストを育成していく。参考フレーズを元にソロを弾けるように反復練習を繰り返す。</p>											
到達目標											
<p>現場では、想定されたアレンジメントから変更することは日常茶飯事。そういう状況に対しても焦らず対応できるミュージシャンになることを目標とする。楽曲に対して色々なスケール、フレーズ、パターン等を自由に組み合わせられることは、ギタリストとしての個性に繋がります。地道な作業であるが、日々のレッスン、そして、自宅での練習方法など自ら上達するマインドを獲得することも目標とする。瞬時にメロディアスなソロ・フレーズを作れるようになること、また、それを自分らしく表現し弾くことを目標とする。</p>											
授業方法											
<p>さまざまなジャンルの課題曲に沿って、コード・アナライズ、スケール等を説明し、耳で聞いている音が、実際にどのような音階で構築されているのか、どのような和音構成で作られているのか、また、音色による感じ方の違いなど、常にリスナーを意識した音楽を届けるギタリストを育成していく。参考フレーズを元にソロを弾けるように反復練習を繰り返す。</p>											
成績評価方法											
試験・課題	70%	課題毎に提出。検定試験の受験・点数により評価									
成果発表	20%	授業内に行われるロールプレイング・グループワークにより評価									
平常点	10%	積極的な姿勢									
履修上の注意											
<p>必ず五線紙を用意し、授業内容のメモを取る。新しい事を身に付けるには、相当量の練習が必要であり、授業以外の時間にも出来る限り多く練習する。また、自分自身の楽器をしっかりとメンテナンスできる事も弾く前の心構えとして重要である。出席率、提出率が4分の3を満たしていない者、4分の3以上出席しない者は、定期試験受験不可、進級できない。</p>											
教科書教材											
<p>毎回授業にて資料配布を行う 参考書・参考資料等は授業中に指示をする</p>											
回数	授業計画										
第1回	コードの構成音、分散和音を理解する										
第2回	フィンガーピッキング、ピック弾き、フラットピックを使い表現の違いを理解する										
第3回	ベースの動きの入ったアルペジオフレーズ、メロディの動きの入ったアルペジオフレーズを理解する										
第4回	Amペンタトニックスケールの構成音を理解する										
第5回	ポジション別のAmペンタトニックスケールを理解する										
第6回	Amペンタトニックスケールの各ポジションをつなげるフレーズを理解する										

2021年度 日本工学院専門学校	
ミュージックアーティスト科/プレイヤーコース	
アドバンスレッスン1_c_Gt	
第7回	Aメジャーペンタトニックスケールの構成音を理解する
第8回	ポジション別のAメジャーペンタトニックスケールを理解する
第9回	Aメジャーペンタトニックスケールの各ポジションをつなげるフレーズを理解する
第10回	ブルーススケールの構成音を覚える、マイナーペンタトニックスケールとメジャーペンタトニックスケールを混合したソロを弾く
第11回	コード・チェンジに対して、マイナーペンタトニックスケール、メジャーペンタトニックスケール、ブルーススケールを意識してアドリブ
第12回	テンション・コードを知り、理解する
第13回	6thコード, 7thコード系テンションコードを覚える
第14回	メジャー7thコード系、m6コード系、m7thコード系、mメジャー7th系テンションコードを覚える
第15回	テンションコードを使ったメロディの作成

2021年度 日本工学院専門学校											
ミュージックアーティスト科/プレイヤーコース											
アドバンスレッスン1_c_Key											
対象	2年次	開講期	前期	区分	必修	種別	実習	時間数	120	単位	4
担当教員	鈴木一義/宍倉聖悟 上野一郎/二本柳/麻生祥一郎			実務 経験	有	職種	音楽家				
授業概要											
<p>音楽の各ジャンル;ロック、ファンク、ライトファンク、ブルース（メジャー・マイナー）、ボッサ、スウィングなど多様なスタイルに応じた即興演奏を身に付ける。テーマ演奏の為の譜面の確認 コード進行の確認 様々な記号を含め、譜面を理解し曲を覚え、アンサンブルができるように指導する。課題曲によってボイシングやアドリブを充実させていく。</p>											
到達目標											
<p>2年次は学校で用意した課題曲を演奏できる様にする。Chameleon、Freeway Jam、Cantaloupe Island、Sunny、Led Boots、he Chicken、Spain、Feel Like Makin' Loveなど様々なジャンルの課題曲でアンサンブルができるよう指導する。</p>											
授業方法											
<p>各自ピアノ（キーボード）を一台ずつ用意して講師と共に演奏して学ぶ。 4リズムアンサンブルの授業の準備内容を主に勉強するが、ソロピアノでのインプロビゼーションも並行して学ぶ。</p>											
成績評価方法											
<p>試験・課題 70% 課題毎に提出。検定試験の受験・点数により評価          成果発表 20% 授業内に行われるロールプレイング・グループワークにより評価          平常点 10% 積極的な姿勢</p>											
履修上の注意											
<p>課題曲に対する下準備。譜面は忘れずに必ず持ってくる。キーボードはコード進行でボイシングの為に譜面を読んでおく必要があります。出席率、提出率が4分の3を満たしていない者、4分の3以上出席しない者は、定期試験受験不可、進級できない。</p>											
教科書教材											
<p>毎回授業にて資料配布を行う          参考書・参考資料等は授業中に指示をする</p>											
回数	授業計画										
第1回	7コードの理解 ブルーノートのコード										
第2回	7コードの理解 ブルーノート7コードのスケール										
第3回	ドミナント7コード										
第4回	ドミナント7コードのスケール										
第5回	ドミナントモーション										
第6回	7コードを使ったアドリブフレーズの作り方										

2021年度 日本工学院専門学校	
ミュージックアーティスト科/プレイヤーコース	
アドバンスレッスン1_c_Key	
第7回	7コードを使ったアドリブフレーズの作り方 課題曲使用
第8回	アッパーストラクチャートライアドのヴォイシング
第9回	リディアングリップ(9コードのヴォイシング)
第10回	裏コードと代理コード
第11回	9コードを使ったフレーズの作り方
第12回	9コードを使ったアドリブフレーズの作り方
第13回	フォースインターバルのヴォイシング
第14回	フォースインターバルとスケールの関係
第15回	フォースインターバルを使ったアドリブフレーズの作り方

2021年度 日本工学院専門学校											
ミュージックアーティスト科/プレイヤーコース											
アドバンスレッスン1_d											
対象	2年次	開講期	前期	区分	必修	種別	実習	時間数	120	単位	4
担当教員	鈴木一義/宍倉聖悟 上野一郎/二本柳/麻生祥一郎			実務 経験	有	職種	音楽家				
授業概要											
<p>スコアリーディング向上、アンサンブル向上、各パート楽曲に合わせてアンサンブルを実践しながらスキルを向上する授業。奏でているフレーズのリズム、音符の長さ、表現方法など意識できるようにする。他の楽器と合わせる時には、全員がリードスコアを読み、小節の進行、リピートマークなどの臨時記号に対応できる現場能力を育成する。各パートと合わせることで、自分以外の楽器への理解も深まることを目的としている。</p>											
到達目標											
<p>3週間に1回、全コースとアンサブルの授業を行う。同じ楽曲であるが、さまざまなプレイヤーと合わせる事で、現場への対応力を養う。同一譜面を読んでいても、プレイヤーによって奏でるフレーズは十人十色であることを知る。その中で自分の個性を発揮できる経験と知識、スキルを得ることを目標とする。この授業はプレイヤーコース内のコミュニケーションを図る上でも重要な授業であり、コミュニケーションがスムーズなセッションほどクオリティーがあがることも経験として知る授業となっている。</p>											
授業方法											
<p>この授業では、3週分使い2曲を仕込む。各パート1週目男子曲、2週目女子曲（入れ替わり可能性有り）3週目全体合わせとする。3週目にはライブ形式で演奏を行い。演奏者ではないプレイヤーは客席で演奏を視聴し、演奏者たちにコメントをする。即時にフィードバックが帰ってくる授業。</p>											
成績評価方法											
<p>試験・課題 70% 課題毎に提出。検定試験の受験・点数により評価          成果発表 20% 授業内に行われるロールプレイング・グループワークにより評価          平常点 10% 積極的な姿勢</p>											
履修上の注意											
<p>この授業では、全ての授業を出席しなければ、仕込み等は自分で仕込んでくるものとする。全体合わせの加、自らの仕込みも開り、授業の欠席等で演奏ができない学生は全体あわせに参加させない可能性もある。出席率、提出率が4分の3を満たしていない者、4分の3以上出席しない者は、定期試験受験不可、進級できない。</p>											
教科書教材											
<p>毎回授業にて資料配布を行う          参考書・参考資料等は授業中に指示をする</p>											
回数	授業計画										
第1回	各パートごと課題曲のリーディング										
第2回	楽器陣のみで曲の全体合わせ										
第3回	Vo. と共に全体合わせ										
第4回	男子、女子各1曲ずつ合わせ										
第5回	楽譜通りに演奏、足らないスキルの向上										
第6回	楽譜でのリーディング能力の的認										

2021年度 日本工学院専門学校	
ミュージックアーティスト科/プレイヤーコース	
アドバンスレッスン1_d	
第7回	メトロノームを使ったり、よりプロの実践的アンサンブルを加える
第8回	楽器陣のみで曲の全体合わせ
第9回	男子、各1曲ずつ合わせ
第10回	女子、各1曲ずつ合わせ
第11回	楽譜通りに演奏、足りないスキルの向上
第12回	楽器陣のみで曲の全体合わせ
第13回	男子、女子各1曲ずつ合わせ
第14回	前期試験発表会 リハーサル・ステージング
第15回	前期試験発表会